

## ◆生産者会議

# ヒトエグサ生産者会議

水産海洋技術センター 大城 信弘

### 1. 背景・目的

此処数年で、ヒトエグサ養殖に新たに  
取り組む、或いは復活させる地区が増え、  
指導要請が多く寄せられている。

其処で、互いの技術交流を図るべく生  
産者会議を開催した。

### 2. 日時及び場所

平成26年3月12日

恩納村コミュニティーセンター会議室

### 3. 結果

会議は座談会形式で11機関19名  
に、普及指導員4名が参加して行われた。

各自の自己紹介の後、普及指導員から、  
此までのヒトエグサ養殖の経緯の概要説  
明が行われ、その後各地の状況や問題点  
等の報告を行い、対策を話し合った。

殆どの地区で雑藻が問題と成っており、  
対策の多くは、ジェットワッシャー  
での網洗浄や、箒やハケでの掃除、網干  
し出、網張りの高低で対処されていたが、  
リボン網の使用でも可成りの労力が省か  
れる可能性が示唆された。

リボンは古くに恩納村漁協の吉浜氏に  
依って考案されたが、PP縄が使用され  
た為、ちぎれて周辺の網に絡まる迷惑が  
生じ、使用されなくなり、本部の備瀬地  
先のみが永く続けていた。しかし、最近  
は解れず、かつ耐久性のある資材が使わ  
れだしており、今後活用が見込まれる。

養殖の手引きについては、検討の結果  
此までに報告されているのと殆ど変わり

が無く、当面は従来のもを使用し、今  
後に新たな知見や手法が開発された時点  
で改める事と成った。資料で、大きく育  
った天然物で、ヒトエグサの本来の成長  
能力を示し、それぞれの漁場での波浪強  
度や栄養塩類の具合を判断し、対処する  
よう説明した。

巧く種が取れない事例もある事から、  
人工種苗の要望も出されたが、従来の中  
板保存方式では、かなりの手間を要し、  
かつ規模の拡大が難しい事から、県内  
では行われて無い状況を説明したが、この  
点については今後の課題である。

大方は、売り先の確保に苦慮しており、  
流通の検討も必要とされるが、技術面  
の話し合いを主とした為、検討迄は行え  
なかった。今後会議を重ね、協議会等  
の全体的な組織を構築し、検討して行く  
必要がある。尚、主産地の北中城や恩  
納村の生産者は、収穫盛期で参加が無  
かったが、今後の会議の持ち方に付  
いては、今帰仁漁協より懇親会を含  
めた会議にして欲しいとの要望が有  
り、開催時期や開催方法は検討課  
題である。



会議の様子

#### 4. 資料

平成26年3月12日 ヒトエグサ生産者会議資料(養殖経過)											
1:1963年(昭和38年)、民間、アサクサノリ養殖網。沖縄県農林水産行政誌、第八・九巻 水産業編(平成2年3月)。1970年(昭和45年度)、琉球政府が羽地、読谷、勝連に計1400枚分・1900ドルの補助。											
2:1965年(昭和40年)、港川にてゾーンや着生時期の調査・試験。シュロ縄、わら縄、竹。昭和41年度琉球水産研究所事業報告(伊野波)。昭和40年暮れから、株式会社 沖縄丸上(マルジョウ)が大量に網張り開始											
3:1968年(昭和43年)、備瀬崎地先にて砂川龍雄氏が開始。:本部町におけるヒトエグサ養殖・砂川龍雄・第1回 沖縄県漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料(昭和52年2月)昭和41年頃から養殖の機運が高まり、42年~43年頃には希望者は50余箇所にあつた。											
4:1969年1月(昭和44年)、羽地・屋我、今帰仁・運天、本部・備瀬、恩納村・前兼久?、読谷・都屋、勝連・平敷屋、糸満・喜屋武、玉城・奥武の7箇所の網張り。昭和44年度、琉球水産研究所事業報告(瀬底・新垣)。種取り場:仲尾次、運天、備瀬、湖辺底、恩納・塩屋、読谷、勝連、泡瀬、喜屋武、奥武島。											
5:昭和45年:恩納村にて養殖始まる。一時吉山盛喜氏一人に。漁協創立30周年記念誌(平成13年11月)。											
6:昭和51年度:本部町備瀬、恩納村の2経営体。近年増加傾向。水産業改良普及活動実績報告書(瀬底、新垣)。											
7:昭和59年度:北中城で試験。現在本島5地区で養殖。水産業改良普及活動実績報告書(諸見里、仲間)。											
8:昭和63年度:生産者会議に伊平屋、伊是名、本部、恩納、北中城、八重山の6漁協参加。水産業改良普及活動実績報告書(専技室)。											
漁協・地区	25年	20年	15年	5年	開始	漁協・地区	25年	20年	15年	5年	開始
伊平屋村	3	4	4	4	S48年?	那覇地区	1	1			
伊是名	4	4	4		S48年?	豊見城市与根			1		
国頭		1				糸満市喜屋武					S44年
羽地	2	3	1		S44年	具志頭村港川					S38年
今帰仁	2	1	1		S44年	渡嘉敷	3	3			
本部	1	2	2	1	S43年	座間味村	2				
伊江	1	3	3	3	S48年?	粟国村			2		
名護市湖辺底					S44年	渡名喜村	2	2	2	7	H, 5
恩納村	1	1	2	2	S45年	久米島	5			2	
金武	1	1				宮古島	5	2	1		47年以前?
勝連	3				S44年	下地町					1
南原			2			多良間村		1	1	2	H5
与那城村池美					H6写真	伊良部町				1	
沖縄市	1				S44年	八重山	1	3		1	47年以前?
佐敷中城	1	1	1	1	S59年	与那国町	2	2			
知念	2	4	4			<b>地点数</b>	<b>48</b>	<b>43</b>	<b>32</b>	<b>24</b>	
読谷村	4	4	1		S44年	<b>漁協数</b>	<b>21</b>	<b>19</b>	<b>17</b>	<b>10</b>	
モズクの網養殖試験開始は1975年(昭和50年)。											





図1 天然ヒトエグサ 38cm 余



図2 アオノリ (緑藻)



図3 シオグサ (緑藻)



図4 シオミドロ (褐藻)



図5 藍藻とシルトの付着

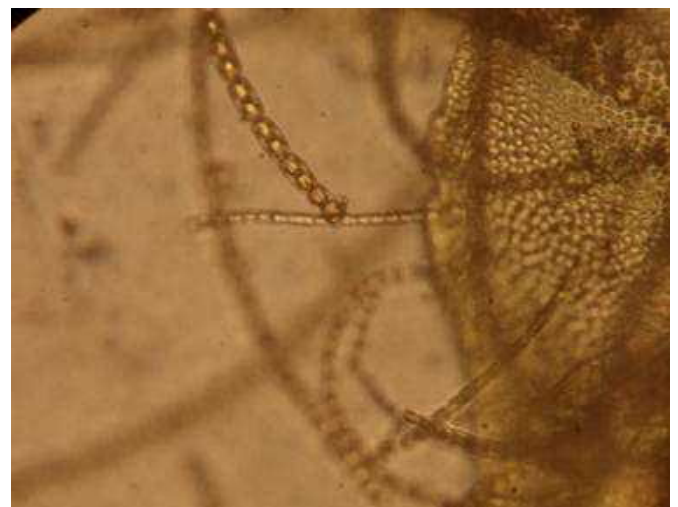


図6 付着珪藻メロシラ





図 7 リボン用 P P 縄



図 8 リボン用リニアバンド



図 9 リボン取り付け風景



図 10 リボン網のテスト設置



図 11 異物チェック



図 12 選別作業